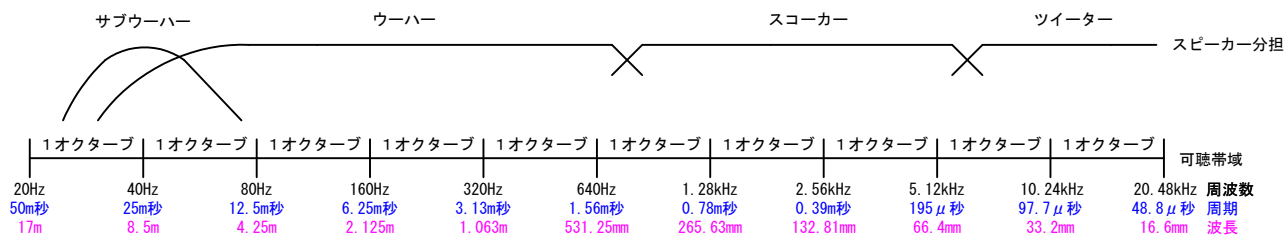
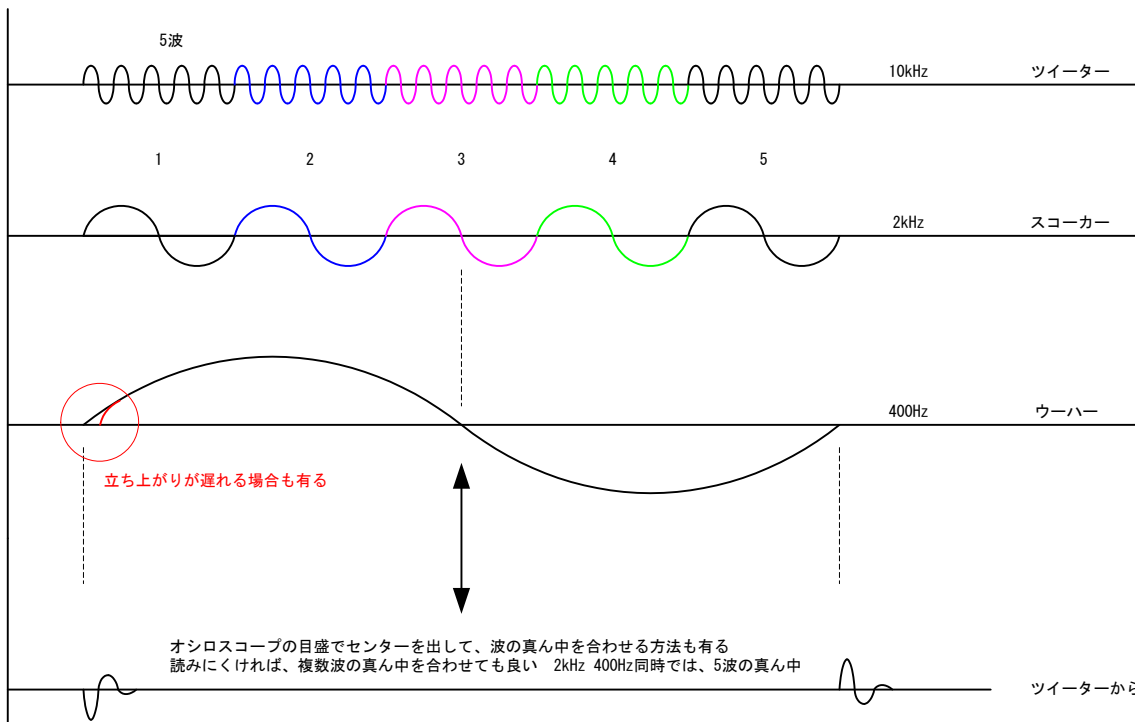
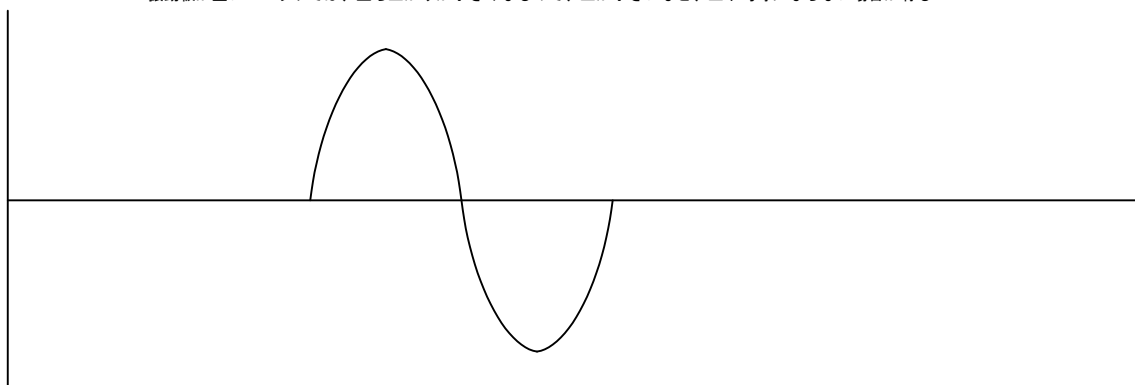


図解 タイムアライメント調整

- マルチWAYスピーカーの分割例
- 1. サブウーハー 1.5オクターブ
 - 2. ウーハー 3.5オクターブ
 - 3. スコーカー 3 オクターブ
 - 4. ツイーター 2 オクターブ



スコーカーとツイーター間は、クロス周波数における1波トーンパスト波が綺麗になるようにすれば良い
 その後、2kHz~16kHzぐらいをスイープして、この波形が維持されることで確認する。
 素直なユニットであれば、かなりの範囲で崩れが少なくなるが、位相に不安がある物では、崩れる所が出る
 振動板が重いユニットでは、立ち上がりが小さくなるので、上が小さいなど、上下均等にならない場合がある



上の400Hzを入力し、チャンネルデバイダーの HighだけをON 他はOFFにすると、波の前後に微分波形が音として出る
 複数波の場合でも、波の始めと終わりの2箇所だけに出る 所在が判ったら、それが目印となる

発信器ソフト WaveGene USBオーディオキャプチャーで、L+Rでアナログ出力し、Lをスピーカー駆動用とし、Rをオシロスコープのトリガー入力とする。
 スコーカーとツイーター間では、安定した波形観測ができるが、ウーハーの波形は、周波数が下がると観測が難しいので、観測技術の習熟が必要。
 ウーハー、サブウーハー間は、バツル面を合わせれば良いが、配置は垂直線になることが、望ましい。